日本比較教育学会　第53回大会　公開シンポジウム

教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する

◆同時通訳有り◆
＊お申込み方法をご参照ください＊

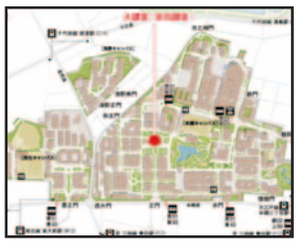
ー比較教育学の原点にもどるー

日　時

2017年6月24日土
14時45分ー17時20分

場　所

東京大学本郷キャンパス
安田講堂



◆プログラム◆

14時45分ー14時55分
開会の挨拶・趣旨説明
恒吉　僚子
（東京大学大学院教育学研究科・教授）（司会）

14時55分ー15時20分
フィンランドの教育モデル
Riitta Vänskä
(Board Member at Invalidisäätiö,
Program Manager, Education Export Finland)

15時20分ー15時45分
シンガポールの教育モデル
Goh Chor Boon
(Associate Dean, National Institute of Education, Singapore)

15時45分ー16時10分
日本の教育モデル
佐藤　　学
（学習院大学文学部・教授）

休　憩　16時10分ー16時25分

16時25分ー16時35分
討論者　丸山　英樹
（上智大学グローバル教育センター・准教授）

16時35分ー17時20分
全体議論

◆お申込み方法◆ 同時通訳機材は先着300名様

●日本比較教育学会員の方は、大会参加申込システムよりお申込下さい。また、通訳機材は別途お申込みの必要があります。詳しくは、日本比較教育学会第53回大会HPをご覧下さい。
●学会員以外の方は、５月中旬以降、高度化センター HP からお申込み下さい。
http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/event/1144/

＜共催＞
日本比較教育学会
東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター
「日本型21世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究―多元的モデルの構築」
（科研費基盤(A)15H01987、代表：恒吉僚子）プロジェクト

◆論点◆

モデル借用自体は比較教育学が古くから関心を寄せてきたテーマである。植民地支配の形で強制的性格を持つものも含め、歴史的にも世界中で見られる現象である。だが、現在起きているモデル借用の特徴は、様々な教育モデルが国民国家の枠を越えて今まで以上に容易にグローバルに拡散してゆくことであろう。PISA, TIMSS などの国際学力テストにおいて「成功例」だとされる国々の教育モデルからの示唆を諸外国が求め、ある国やある文化的文脈で生まれた教育モデルがたやすくインターネット等で拡散し、ビジネスとして成立してゆく。

こうした時代状況を、我々はどのように理解し、対応すべきなのであろうか？ある国から生まれたモデルがグローバル化し、かつてない規模で他国に移植される中で、何が起き、どのようなメカニズムが働いているのか。モデル借用は比較教育学の対象テーマで長くあり続けてきたが、そこからどのような知見が得られ、新しいグローバルビジネス時代の教育モデル借用に対して何が提示できるのか。いずれも世界的に関心を持たれているフィンランド、シンガポール、日本の教育モデルの具体例を通してこうした問いについて考える。